



令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年4月17日(木)及び25日(金)、6年生を対象に「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施いたしました。過日、札幌市教育委員会より市立小中学校分の調査の結果が発表されました。本校でも、調査の結果を分析し、課題及び改善の方向を検討し、結果をまとめましたのでお知らせいたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご留意ください。

1. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語・算数・理科)

- ①身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容や、様々な課題解決のために構想を立て実践し評価・改善する力など。
- 上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

2. 実施日

令和7年(2025年)4月17日(木) 教科に関する調査(国語・算数・理科)

令和7年(2025年)4月25日(金) 質問紙調査

【全国の平均正答率と比較して、以下のようにお伝えします。】

- ・ 上回っている
- ・ ほぼ同程度であるが、やや上回る。
- ・ ほぼ同程度であるが、やや下回る。
- ・ 下回っている。

《国語科》

本校の概要

<知識及び技能>

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

・ほぼ同程度であるが、やや下回る。

【情報の使い方に関する事項】

・下回っている。

【我が国の言語文化に関する事項】

・上回っている。

<思考力・判断力・表現力等>

【話すこと・聞くこと】

・上回っている。

【書くこと】

・上回っている。

【読むこと】

・上回っている。

今回の調査における課題

・ほぼ同程度、または上回っているという結果である。書くこと、読むことが高かった。

・選択式、記述式、共によくできている。

・情報の扱い方については、どのように情報同士を関連付け、どのように簡略化して表すかということをやや苦手としている。

・設定された条件を盛り込みながら自分の考えを書き表す問題において、無回答率が全国平均と比較してやや高かった。資料の中から適した事柄を選び出し、活用することをやや苦手としている。

改善の方向

・情報の扱い方に関しては、情報と情報を関係づけて考えたり、それを分かりやすく表したりする経験を増やしていく。(思考ツールの活用など)

・言語活動を通じて自分の考えを表す学習を継続して取り組んでいく。その中で、言葉の多義性に気付いたり、相手意識や条件意識をもって伝え合ったりする経験を積み上げていく。

・新出漢字の学習の際には、漢字のもつ意味を考えながら文章を書く学習を充実させる。(同音異義語など)

《算数科》

本校の概要

【数と計算】

・ほぼ同程度であるが、やや下回る。

【図形】

・上回っている。

【測定】

・ほぼ同程度であるが、やや上回る。

【変化と関係】

・上回っている。

【データの活用】

・上回っている。

今回の調査における課題

・【数と計算】では、分数のたし算(異分母)の計算や計算の仕方を記述する問題の正答率が、全国よりやや下回っている。また、記述問題の無回答率も全国平均と比較して高かった。

・【データの活用】では、全国より上回っているが、一部の問題の正答率が低く、無回答率も全国平均と比較して高かった。

※目的に応じて適切なグラフを選択したり、言葉や数を用いて記述したりする問題。

・全体を通して、記述式の問題の無回答率が高かった。

改善の方向

・分数を含む四則計算の定着を図る習熟の時間などを設定するとともに、計算の仕方を、数直線・図・式などに関連付け、多面的にとらえることができるようにする。

・身近な題材を扱ったデータを取り上げる、自分の考えについてデータを使って表現する、データをもとにして話し合うなどの場を、単元を通して意図的に設定する。

・図や言葉、式やグラフなどを用いて考えたことを、ノートに書いたり、伝え合ったりする活動を取り入れることで、表現力を高めていく。

・学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感する機会を設けることで、自信をもって、自分の考えを表現できるようにする。

《理科》

